

広域山地流域における流木流出量の推定に関する研究 ～流木が引き起こす災害をより確実に防止するために～

土石流危険渓流を中心に講じられてきた流木対策に加え、より広域の山地流域を対象とした流木対策のため、渓流の地形や洪水などの条件に基づき流木の流出量を推定する技術の開発を目指します。

☆背景

平成29年九州北部豪雨では、流域内の複数の支渓流や主渓流溪岸の崩壊・土石流により発生した大量の流木が主渓流において下流域まで流下して災害が生じました。土石流危険渓流を中心に講じられてきた流木対策に加え、より広域の流域を対象とした流木対策の計画・実施が急務となっています。

☆目的

支渓流で発生した流木は、主渓流に入り込み、洪水によりさらに下流に流下します。流木の流れやすさは、洪水時の水位や勾配、河幅等によって変わると考えられます。そこで、現地での調査結果をもとに、渓流の地形や洪水などの条件に基づき流木の流出量を推定する手法を検討します。

☆研究内容

【下流に流下する流木量の推定方法】

- 流木が発生・堆積する箇所の特徴と流出率の関係を分析し、下流に流下する流木量を推定する方法を平成33年度までに開発します。

【流木の再移動の危険性評価方法】

- 上流から流下し堆積した流木は次の洪水で再移動し下流に被害を発生させる可能性があります。そこで、災害後の流木の再移動の危険性を評価する手法を、平成33年度までに開発します。



河幅、勾配等の地形条件をもとに、水深、流速や流体力より流木の流れやすさを評価する。



☆その他

- 研究期間 平成30年度～33年度
- 問い合わせ先 土砂管理研究グループ 火山・土石流チーム 石井 Tel: 029-879-6785